清水中学校　学校通信

2019.11.18
No54
文責校長

学校教育目標：自立・協働・創造

☆幡多地区小中学校ＰＴＡ連合会研究大会「非認知能力」を育む大人の関わり！

11月17日に幡多地区小中学校ＰＴＡ連合会研究大会四万十大会に出席していました。今回の講演は、香川大学医学部小児科医の鈴木裕美先生の『子どもの「非認知能力」を育む大人の関わり』という演題での話しでした。

すごく興味のある講演でしたので紹介します。

「非認知能力」とは、意欲、積極性、勤勉性、自尊心、協調性、社交性、思いやり、やり抜く力、自制心などの事を「非認知能力」と言います。学力の事を「認知能力」といいます。「非認知能力」を伸ばすと、学力にも大いに影響することは知られているところです。

「非認知能力」を伸ばすには、①安定した愛着をつくる。②ポジティブシャワーをかける。事が必要なようです。集団生活の中で様々な人と出会い、関わり、活動・学習をし、失敗や困難を乗り越えるために、大人が意識して関われば、子どもたちはしっかり成長するようです。

子どもとの関わりを振り返ってみましょう。感情的なメッセージ、多すぎる指示、言う事を聞かせるだけのだけの指示、脅かすだけで実行しない罰、好ましい行動は無視するなど、子育て中にはよくありがちな親の対応です。私も子育て中には行っていました。好ましくない親の行動だったと猛省しなければいけないようにも思います。

〇子育ての五原則

①安全・安心して過ごせる環境づくり
「笑顔で大丈夫と言おう」

②積極的に学べる環境づくり
「子どもの関心ごとに関心を持とう」

③一貫したわかりやすいしつけ
「ルールはシンプルに具体的に」

④現実的な期待感をもつ
「成長したことに注目しよう」

⑤親としての自分を大切にする
「気持ちの余裕があればうまくいく」

上の５つを意識したうえで、まずは、愛着（土台）を築いていこう。子どもたちは、「愛してほしい」「見てほしい」「認めてほしい」という思いを持っています。この

３つを満たすと「安心感」と「信頼感」が生まれるようです。言葉と態度で愛情を示してみましょう。目を向け、耳を傾け、理解し、関心を示して手を差し伸べる。できたこと、やってみたことを具体的に褒めることをやってみましょう。とにかく褒める。９割が悪くても１割の良いところを探して褒める。もうそんなことはやってますよと言われるかもしれませんが、やってみてください。

次にポジティブシャワー（前向きな言葉かけ）です。

子どもたちは、それぞれに持っている可能性や能力があります。興味を持っていることについては、それを伸ばすために頑張り努力もしているのです。親は、「なんでできないの？」「他の人はみんなできてるよ」「前も間違えたね」などと言ってしまうことが多いようにも思います。できなかったことを指摘するのではなく、頑張っていることに目を向け前向きな言葉をかけるようにしてください。愛情とポジティブシャワーをたっぷりと与え、折れない幹（心）を育てましょう。今からでも遅くない。今日からスタートしましょう。という講話でした。改めて問い直してみたいと思います。

☆来週から期末テスト週間になります！

１１月２５日からは期末テスト週間になります。部活動も停止とします。今週は期末テストへ向けての計画も立てるようにしています。保護者の皆さんも子どもたちの取り組みをご確認ください。愛情たっぷりのポジティブシャワーでの声かけをお願いします。

12月2日　国語，社会，英語（各学年で違います）
12月3日①数学　②理科　③～授業
体育は11月29日に行います。